

神戸の海とゴルフの50年

西村マサさん

日本最初の女性ゴルファー

西村マサさんの家は神戸市舞子、淡路島を指呼の間に見渡す海岸の丘の上にある。一日に数百艘の船舶が行き来する舞子ヶ浜。われわれが西村家をたずねた日は天気

清朗なれど波高く、松林をゆする風の音が騒いでいた。

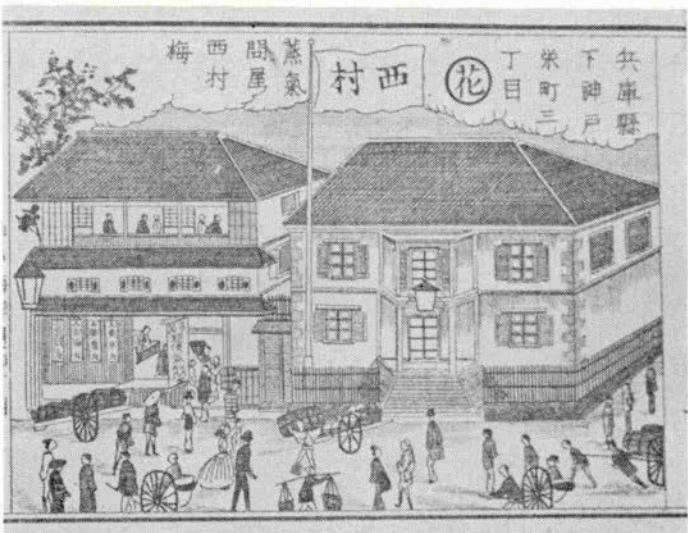
マサさんの半生は神戸の海となじみが深い。明治三〇年生れ、今年七七歳のマサさんと神戸との縁は、大正三

◀ 西村マサさん



年、当時十八歳の楚々たる少女だったマサさんが西村旅館の跡取り息子、故貫一氏に見初められてはるばる東京から嫁いできたときにはじまる。マサさんは東京の大きな神宗の寺に生れた。東京府立第三高女（現在の都立駒場高校）に学んだ才媛。在学中に、これも東京の麻布中学校に学んでいた貫一氏との間にロマンスが芽生え、たつての懇望に遠路はるか神戸まで嫁いでゆく決意をする。貫一氏はマさんの亡兄の親友で、その縁から二人は近づいたという。さる著名外交官で外務大臣も勤めたことのある人物の令嬢からの縁談をふってまで、貫一氏はマさんとの結婚を望んだことだから、芳紀十八才の魅力おして知るべしである。ともかくもここに神戸とマさんとの生涯の結縁がはじまることになる。

神戸の西村旅館といえは、明治の初年以来、神戸港に間近い栄町三丁目に門戸をかまえている大老舗である。明治十九年までは、明治三女傑のひとりと謳われた西村



明治15年の西村旅館（神戸・兵庫・明石豪商独案内之魁より）

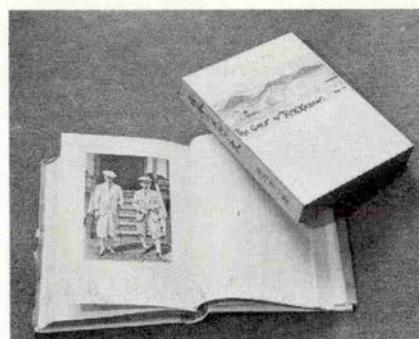
組が経営を切りまわし、外国航路の表玄関たる神戸の一劃を牛耳つて殷賑をきわめていた。経営者の代がかわり明治が大正と改元してもそこは強弩の末、草分け以来の屋台骨はびくともゆるがず、海岸通りに櫛比する二十軒跡継ぎのところに嫁いできたマサさんは、そこで一躍、数奇なといっては語弊があろうが、きわめて多事で波瀾に富んだ後半生を迎えてはならなかつた。

ちなみに外航旅館といるのは、神戸ならではの格式をそなえた、外国航路の船客ばかりを対象にした旅館である。客の宿泊のみならず船荷の廻送業も兼ね、通関手続きや出入国手続きも一手に代理を引き受けた。こんな話がある。当時の大蔵省の税法には「身分相応とみなされた荷物には免税云々」の条項があり、だれの何が身分相応であるかは旅館の格式できまつたという。外国航路の客船が港で検疫のために碇泊すると、西村旅館の若い衆が小船を漕ぎ寄せ、客の荷物に和紙の端を朱に染めた「上げ札」をつける。そうするとたいがいの荷物は「身分相応」の扱いになって税関をフリーパス。その代りに旅館には多少の見返りが入ることになつて、船客たちの間には神戸税関の通過はやさしいが西村税関はむずかしいという冗談が流行したとか。今はむかし、神戸港のグッド・オールド・デイズの物語である。

現在、西村家には往時の旅館営業時代の爽大な宿泊者名簿が残されているが、そこにはさながら明治・大正・昭和の三代の日本の近隣外交史の縮図が読みとれるといつてよいだろう。明治時代には副島種臣・西園寺公望、小村寿太郎などの縉紳貴顕にまじってフェニックス、志賀重昂、横山大観などの名が見えるかと思えば、大正時代に入ると当時の大陸・半島国政策の影響だろうか外交関係の人士の往来がひんぱんになる。年によつて文官の隆盛あり、武官の跳梁あり。一見片々たる人名の羅列の背後に、どれだけの深い歴史が刻印されているやら津々として興味はつきない。これも当家に保存されているとい



ありし日の西村貫一さん（昭和35年撮影、65才）



「日本のゴルフ史」（昭和5年出版）

う宿泊名士の揮毫墨痕のたぐいにも、平時と戦時とに振るよ

うに揺れ動いた近代日本の、それぞれの時局が反映していることだろう。まことにこの旅館は、行き交う人々の逆旅であつた。

た。

さて、大正のはじめのマサさんは、甲斐々々しくも初々しい旅館の若奥様、さぞやてきぱきと客あしらいも愛想よく、縉紳貴顕の応接にいとまあらず、とは思いの外マサさんの口からは神戸に来たての頃はこの商売がいやせひとも嫁御にと望まれて、いったいに婚期の早い当時でも結婚はクラスでナンバーワン。東京駅のホームで

級友たちと泣いて別れを惜しんできたマサさんは、どちらかといえば深窓の令嬢タイプ。とても客たちを左右にさばくという社交家型の女性ではなかつた。旅館商売にはたゞさらないでよいという約束で嫁いだはずの嫁家の、いまだからいえるが家つきの義姉がいて営業を切りまわし、当主の若奥様とあらばいわれるままに座敷に出て客に挨拶の一つもせねばならず、後でひとりで泣いたことも幾度となくあつたという。どうせのことならと覺悟をきめて客の接待も上手になつたのは、マサさん

の持ち前の負けん気。そのあたりの人情の機微は、有吉佐和子さんんだつたら描写の妙をきわめるにちがいない。

ところでマサさんの半生を語る場合、それにもまして無視できないのが夫君貫一氏の存在である。戦後ほどなくして物故されたこの西村貫一氏なる人物、まことに一世の奇士の名に恥じない。西村旅館の跡継ぎに生まれながらいっさい家業をかえりみず、数度の外国旅行をこころみて美術品の蒐集に熱をあげる。大正九年には、マサさんを伴つて歐州から米国に一年余り遊ぶ。それも山高帽に最新流行の背広という典型的なモボスタイルで、若妻には帰国後も（旅館営業にもかかわらず、である）一枚の着物も身につけることを禁じたといふからその奇人ぶりがしのばれよう。しかしこの人物、決してたんに家産の蕩尽をこととする浪費家ではなかつた。一面においてみごとな実務家の手腕を持っていたことは、生前の出版に係る『日本のゴルフ史』の著述、みずから蒐収した世界のゴルフ文献のビブリオグラフィ、そして近く梓にのぼるという遺稿『神戸西村旅館を通じて見た明治・大正・昭和文化史』に徴して明らかである。神戸は日本のゴルフ発祥の地であるが、貫一氏はその草分け時代の一

ゴルフの実地から離れた貫一氏がその代りに書き上げたのが前述『日本のゴルフ史』である。



現在(77才)のマサさん



大正14年(29才)ハ
ンディスクラッチ



大正12年の「サンデー毎日」の表
紙になったマサさんのフォーム

人であり、現に日本最初のプロ・ゴルファー福井覚治を育てた人物だとのこと。しかしその親父も昭和五年の不況以来、ふつりとゴルフをやめて家業に専念はじめました、と令息の雅司氏（西村写真研究所経営）は語る。昭和八年の不況のどん底には没落寸前となり、旅館を売りに出すことまで考えにのぼった状態を切りぬけて、再び昔日の隆盛に戻したのも、一にかかるて貫一氏が「極道」をやめ、営業の立て直しにかかったからだという。

ゴルフの実地から離れた貫一氏がその代りに書き上げたのが前述『日本のゴルフ史』である。

日本最初の女性ゴルファーとしての西村マサさんの経歴も、そうした貫一さんとの結婚生活から生まれ出た一つの結実であった。前述の歐米旅行から帰国早々、大正十一年からマサさんはゴルフの稽古をはじめ。日本最古のコースとして知られる六甲山上的神戸ゴルフクラブといえ六甲に登るにはまだバスも車もなく、水道もなかった時代である。ゴルフ場までの道のりはもっぱら駕籠と足であった。女のくせにという周囲の偏見をはねのけ、わずか三年の短時日の間にマサさんはシングルプレー一発となる。大正十四年から五年間、六甲のレディスクラブ・チャンピオンを連続して獲得するにいたるのである。一つのこととに凝つたら、他のことに眼も向けさせないという夫君の薰陶もさることながら、この輝かしいキャリアを実現させたものはやはりマサさんの気性、負けじ魂の賜物であったろう。その間、鳴尾、茨木、舞子（現垂水）などのゴルフクラブに足跡を伸ばすかたわら、大正十三年には上海・香港・台湾・マニラなどにプレイ指導の旅にも出た。

いまでもマサさんは令息雅司氏や知人たちに伴われてコースをまわる。現代風のカストムになれていないので当然することがしばしばだというから、昨今はゴルフアーチたちのマナーも風俗も、昔とはだいぶ違ってきているのだろう。そこで当然、話はゴルフの今昔談義におちつてどう思いますかという質問には、いいことだとは思いますが、でもいさか隔世の感があります、というのがマサさんの返事。たとえば昔のゴルフ場は、せいぜい一日に四、五十人のプレーヤー、しかもその各々にキャディが一人というしぐくのんびりしたものだったが、最近では一日に二百人もが詰めかけてひしめきあうあります。それにみなさんスコアばかりに眼の色を変えて、ゆつたりとプレイをたのしむ余裕がなくなつたみたいね、ゆ

とマサさんの批評はなかなか手厳しい。

一昔前までは、ゴルフはある種の身分制のにつかれた閑日月ある階層のスポーツだったといってよいだろう。カウントリー・クラブは、いわばゴルフのかたちをとった社交と親睦の場であって、記録や賞品が自己目的ではなかった。戦後のゴルフはよくいえば大衆化、ありていにいって平民化とも呼ぶべき現象が進んで、往昔の良き風俗が失われたのはやむをえない。

そう淡淡と語るマサさんの口吻には、さすがは昔の大店の奥様、舞々たる大會社の社長夫人たちにゴルフを手ほどきした女傑の貫録がじみ出て、神戸ゴルフの古きよき時代の回想がただよう。それと昨今のゴルフの「民衆化」と、そのへんの事の是非をどう考え合わせたらよいものか、ゴルフについては眼に一丁字ない筆者にはかいもく見当がつきかねるし、大いである。よつて借問す、世のゴルフ人士もつていかんとなす。

御亭主じこみのハイカラ趣味は、またとえマサさんのコーヒーの淹れ方ひとつにも現われた。若奥さまみずから豆を挽き、ブレンドするコーヒーの風味が格別だというものが東京でも評判になり、毎月「づばめ」で西下し、神戸から大連航路で下関へおもむく某大手セメント会社の社長が、その途次がならず西村旅館に立ち寄り、たつた一杯のコーヒーに当時の金で百円、二百円の茶代をはずんでいたといふから、これも古きよき時代の物語である。港湾と海運の町神戸、遠い海彼への夢が水の波にきらめき、希望と野心が船客たちの胸をふくらませ



左よりマサさん、雅司さん、筆者（舞子の自宅で）

ていた港町のノスタルジアが、西村さんの半生の回想にはいつも蕩蕩としている。

昭和二十年三月、神戸の市街を襲つた大火の炎は、明治以来ののれんを誇る西村旅館を灰燼に帰した。西村旅館八十七年の歴史はここに終止符を打つことになつたのである。もちろん、戦後すぐ旅館を再建しようという考え方もあるにはあつた。しかしそれをしなかつたのは、マサさんはじめ一族の英断であつた。もしも西村旅館が幸いに焼失をまぬがれていたとしたら、アメリカ駐留軍に接收され、将兵相手のひらたくいえば娼婦宿、そんなものにされかねなかつたのが時代の勢いだつたろう、と雅司氏はいう。西村旅館は創業以来の名を惜しみ、みずからをいさぎよく火中に葬つたところが訪れて外航旅館そのものが存在理由を失つてゆくことを見越した、早すぎた攝理のはたらきであつたかもしれない。

西村さんの家のある舞子の浜では、近く淡路島への架橋工事がはじまるところである。またもう一つ、海に対する陸の侵略は文字どおりの橋頭堡を築いたことになる。

そういういえば、神戸の市心から高速道路に乗つて走つた須磨の山中は、いたるところ宅地造成で白茶けた地肌がむきだしにされていた。西村マサさんの半生と結びついてきた神戸の碧玉の海、緑ゆたかな六甲の自然はいまはもう取り戻すすべはないのだろうか。

マサさんのお話からは、今日の神戸が失いつつある何か貴重なもの実体がまざまざと感じられるように思われる。

顔見世・仮名手庵大歌舞伎

番町皿屋敷

カナディアン・アカデミー

「いっそ、そそうの振りをして、あのお皿を一枚打ちこわして、お菊が大事か、宝が大事か、殿様の本心を試してみよう……」

主人であり、恋人でもある殿様、その殿様の心を信じる……疑う……信じる……疑う……宝の皿を手に、立ち上がりかけては坐り、立ち、また坐り……。身分違いの恋におちてしまつたお菊は、立派な家柄の美しい娘との縁談を勧められている恋人の愛を確信できない。命を賭けて男の心を探ろうと決意する時見せる魂の逡巡……。悲劇の運命の恨みと哀しみを込め、台詞は波が引くがごとく沈んでいく。無表情とも見せる眼があらぬ方を見据えると、舞台をはう重い空気が、一瞬鈍くたじろぐ。

仮名手庵（＝カナディアン）大歌舞伎「番町皿屋敷」を演じるのは、カナディアン・アカデミーに学ぶ各国の生徒たち十五人。裏方をつとめるのも、ヤマ場になると「ナリコマヤ！」「キノクニヤ！」と声をかける客席も、ほとんどが金髪や青い目。「修禅寺物語」「藤十郎の恋」に続く第三弾、仮名手庵大歌伎は前評判も高く、昨年十二月十五日、灘区長峰台の同校講堂で上演され、やんやの喝采を浴びた。

連日の猛けいこ、さすが。着物の着方、かつらや白粉も不自然でなく、しとやかな歩き方など、日本女性でもよほど訓練を積まないと、ああは、なよやかな感じは出せまいと思うほど。



喧嘩早いかがイイ男青山播磨を演じるは、主役のロス・グリアー君。



舞台正面にデンと現われた若い青山播磨は、その堂々たる体軀、額の具合など、立派で実にいいのだ。奴^{のこ}は、台詞が英語なまり（？）にはねて威勢がいい。

原作で岡本綺堂描くところの「細おもてのやや寂しいのを瑕にして、色のすぐれて白い、眉のやさしい」お菊は、その日も静かな愁いをたえた美女。長く、居すまいを正したまま坐り続けて、時々つらそうにモジモジする様子がないでもなかつたが、立ち際には、美事に立ち上がりたではないか！ 腰元のおせんさんの、リンと張った細い声は不思議なリズムで古典的な抑揚を歌うように上下する。

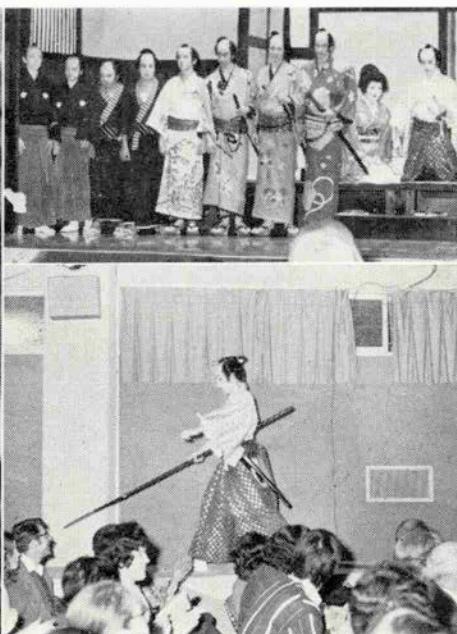
この歌舞伎、約三十カ国の生徒が学ぶ同校で、日本語を教える海野光子先生の指導、学外から衣裳やメーキアップ、振付けなどの協力も得て、大道具小道具、チケット販売やカメラマンなど、すべてみんなの合作。日本の伝統芸術を理解しようという、若い、頼もしい体当たりだ。

「むむ。さては本心を探ろうのために、わざと家の宝を打ち割って、播磨が性根をたしかに見届けようといたしたか。菊。しかとさようか」「はい」

「それに相違ないのか。」

お菊は播磨の手で捻じ伏せられた。

潔白を疑われ、無念やるかたない男は、まだ愛してもいるお菊ながら手打ちにせずにはすまされない。そして、女が一生に一度の恋をしてその相手につわりのなかつたことがわかれれば死んでも満足とうつむいて手を合わせるお菊。複雑な心理を、時代を隔て育ち、環境の全く違う彼らはどんな風に理解し、納得して演じたのだろうか。



ヤレヤレ、オヒルノ部ガオワッタゾ……満足気な顔でズラッと勢揃いした役者たち。

美しい伝説にもとづいた

KOBE
INTERNATIONAL
JOURNAL
SPOT

関西日本スウェーデン協会

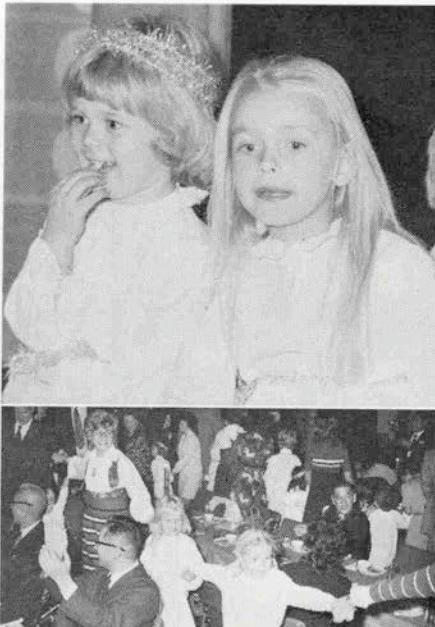
ルシア祭

暗く長い冬を送る北欧人にとって明るい太陽のもので過ごせることがどんなに魅力的なものか。昔より北欧では12月13日が一年中で夜が最も長いと考えられ、この日を境に昼が少しずつ長くなつて行くことは北欧人にとって大きな喜びであった——BC四〇〇年頃シリ一島シラキユースに美しい瞳をもルシアという美少女がいた。異教徒の盲目の青年に熱愛されたルシアは自らの目を首の恋人に捧げ青年はキリスト教徒になつた。ルシアの美しい心をよみ給うた神は更に美しい目を彼女に与えた。ルシアは以来殉教徒となり眼病の女神と崇められている。——殉教の美少女ルシアの伝説とラテン語で「光」を意味するルシアが結びつき約一五〇年前からスウェーデンでルシア祭が12月13日挙行されるようになつた。

さてこちらは中山手にある神戸クラブの12月13日。駐日スウェーデン大使を招いての関西日本スウェーデン協会主催のルシア祭です。

七本のローソクを頂いた「ミルテンクランス」という王冠を頭にのせて「サンタ・ルシア」の歌声と共に歩むルシア姫とお供の子供達。ルシア祭に欠かせないコーヒーとルシア・カーカ(クッキーの一種)をいただきながらの白く清らかなこの集いは暗い冬の夜に光と夢を与えてくれるメルヘンの香りただよう祭である。

右上 今年のルシア姫は11才。右下 スエーデン大使ご夫妻。中 これがルシア



KOBE
INTERNATIONAL
JOURNAL
SPOT

神戸支部例会

小原流の巻

イケバナ・インターナショナル

▲会長のメリーフォードさん

いけばなを通じて国際親善をはかるイケバナ
・インターナショナル神戸支部の例会が、12月
14日小原会館で開かれた。神戸や阪神間に住の
外人や日本人約三十名が集い、東京から会長の
メリーフォードさんも出席。小原流芸術参考

館を見学し、正月用の小原豊雲先生の力作「岩
戸神楽」に関心が集まつた。また、豊雲先生の
指導でいけばなの講義があり小寺さんの同時通
訳で皆さんメモを取る熱心さであった。デモン
ストレーションの後は日本の伝統を紹介する映
画があり、例会はなごやかなうちに終わった。

この会は、昭和31年に東京で有志が集まつて
結成、本部は主婦の友会館内にある。ワシントン
・ロンドン、パリ、ジュネーブ、ベルボルン
など海外にも多くの支部があり、神戸支部は昨
年9月に第一八一番目支部として結成され、現
在登録人数は48名。例会は毎月第二金曜日にな
り、ティーパーティをしたり、各流派の先生を
招いてデモンストレーションをしたり将来は展
示会を開く予定だとか。またこの会はいけばな
の流派をこえた集いで、いけばなど英会話に興
味のある方は男女を問わず参加できる。会費は
一年間五、五〇〇円で、ゲストとして参加希望
の方は一回六〇〇円。入会希望の方は、野田礼
子さん（宝塚市寿楽荘六一一、0797-77
1994）まで申し込んで下さい。



（写真左上）活気あるデモンストレーション
（左下）イワトカグラをもの珍しそうに



▲小原流家元豊雲氏

（右下）豊雲先生力作「岩戸神楽」

MAKE UP WITH ROYAL

冬から春に
ディオール、カルダン、サンローラン
のセルロイド枠
舶来、国産のオール・メタル・フレームにて
よりよく装って下さい



神戸眼鏡院

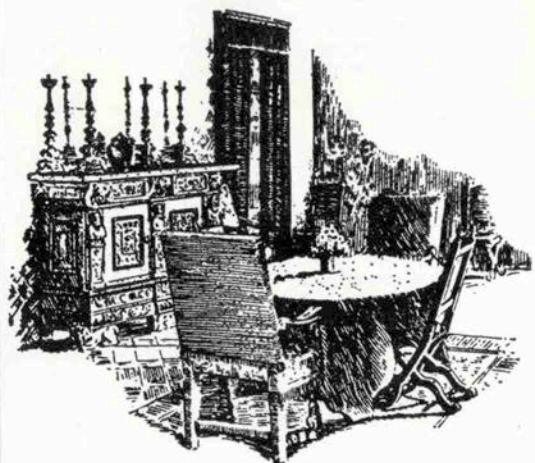
元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表

三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874-5

元町店は毎水曜日がお休みです

三宮店は第3水曜日がお休みです

欧風家具・婚礼家具



設計・創作

永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目 大丸前 TEL神戸(391)3737
(代表)

東京店・東急百貨店 (日本橋店内6階)
(本店(渋谷)7階) TEL03(211)0511
TEL03(462)3180

工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35
神戸木工センター TEL(078)706-5913

★コンピューター・ドックシリーズ

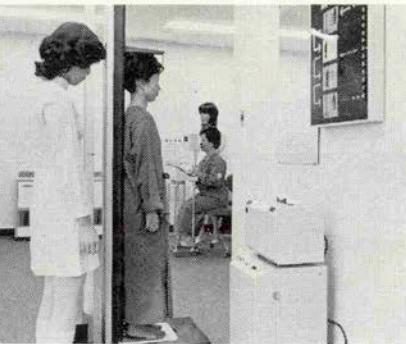
（4）

健診センターはホテルみたい

レポーター／山下文子・礼子（邦楽家）



神妙に三木院長に診断を聞く山下さん親娘



眼底検査と身長・体重を計る

私が醒めた。親子揃って、不安
そうな、緊張した顔／もし、恐し
いことをされたら、恥も外聞もな
く逃げ出す覚悟。とにかく、病院
へ、出発。着いた所は、病院とい
うより、温泉場のホテルみたいな
所。私は眠いしおなかはペコペコ。
早速、検査が始まる。

三ヵ所目は、胃のX線。ペコペ
コの私にとって、バリウムは美
味／胃にドスンとボリュームがあ
つた。『糖飲』も、キリンレモン
みたいで、これ又美味。ちょっと
困ったのは、眼底写真のために、
左目が薬で、一日中見にくかった
位。とにかく、無事検査終了。意
外に、簡単だったので、拍子抜け
結果は母子共に異常ナシ、アア
良かつた。たった三時間で全身を
診てもらえるのですからとても手
軽だし、忙しい私たちにピッタ
リ。安心して暮せる程幸福なこと
は無いと思いました。但し、老眼
の必要な方は、眼鏡をお忘れな
く（コンピューターの質問状の
記入がたくさんあるので）

「気軽に成人病健診」と、兵
庫県下ではじめてのコンピュータ
による健康診断センターが、神
戸市長田区丸山町3、丸山病院
（三木徹院長）に昨年五月に完成。
現代人にマッチしたスピードな
システムが人気となって、モーレ
ツサラリーマンや、家族ぐるみの
検診者が増えている。
健診は、血液、尿の検査。胸部
X線、胃部X線。身長、体重、視
力、血圧、眼圧の測定。心電図、
心拍数解析、聴力、肺機能、眼底
検査など六十六項目が全部自動的
に進められ、コンピューターによ
つて二日かかったものが三時間で
すむ。費用は三万三千円（三十五
歳以上の人にはぜひ年に一度うけま
しょう」と呼びかけている。

丸山病院 健診センター

神戸市長田区丸山町3丁目20

TEL 神戸078(642)1131(代)

午前9時～午後5時

★3時間ドックとは？

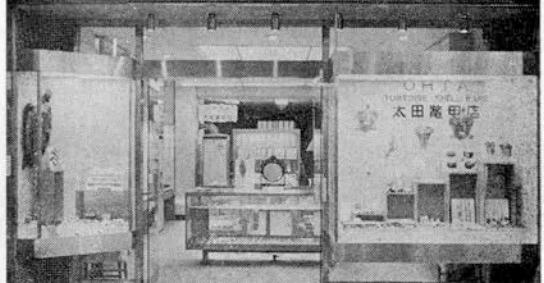
高級紳士服専門店

神戸テーラー



さんちかメンズタウン TEL (391)0388
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL (331)2817-3173

太田鼈甲店



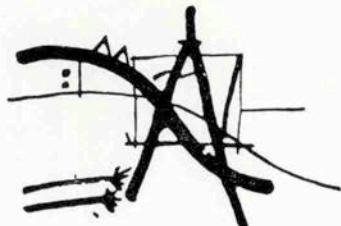
べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

元町1丁目 TEL (331)6195

WINTER KOBE SHOPPING

額縁絵画・洋画材料 室内工芸品



末積製額

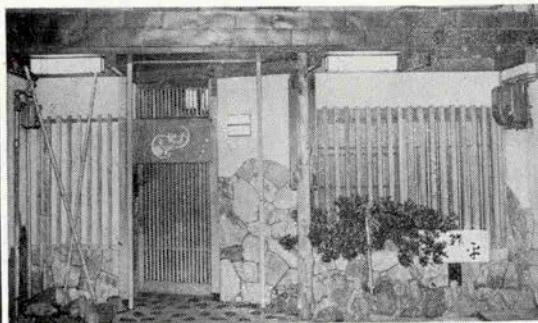
三宮・大丸北
トア・ロード
331-1309-6243

ひょう

和田キイチの店
パーマ&カットの店

おみせ 芦屋市船戸町3-6
もしもし 0797(31)5212

半之又鮓



神戸三宮生田ノ社ノ西 電話(331) 0935

てんぶら
おすし



火祭彌

本店

大丸前・三宮神社東

TEL(331) 5567372

(毎週水曜日休み)

さんちか味のれん街
(第3水曜日休み)



営業時間
A.M.11.30~P.M.9.00

WINTER KOBE SHOPPING

やつぱりうまい
むさしのとんかつ



でんわ・
321 321 331
—〇—三七一
〇六三四五

コーベ三宮
サシ



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三恵洋服店

元町4丁目 TEL(341)7290

ソナエヨ・ツネニ

竹田 洋太郎（在ニューヨーク）え・たかはし・もつ

この年になるといろいろ心配ごとが多いものだから、ついグチになってしまふけれども、いわば「憂國の情」を吐露するために、ついむずかしい話になるのを許していただきます。

市や町の、いわゆるコミュニティーが家庭に情報を伝達するチャンネルとしては、日本でもそうですが、学校の子供にいろいろな通達事項をプリントにして、持つて帰つてもらうこと。地域団体としては、日本と同様PTAという存在があります。子供が「地域情報伝達チャンネル」になるのですね。これは日本でも米国でも変わらない。というより、日本が戦後アメリカの真似をしたんだから当たり前のことです。

その子供が一番最初に学校から持つて帰つたパンフレットは、日本とはちがつて「核攻撃に市民はいかに対処するか」という表紙のものでした。いま、ここで核攻撃をソ連かどこか知らないけれど、受けることはマズない。だけど、米国は核攻撃能力を持っている国だから、同時に核攻撃を受ける可能性がないとはいえない。

だから、核攻撃を受けることを考へて、そんな場合に市民はどうしたらいいか。一応知らせておくのが国として、政府としての責任です。

また同時に、その本には、集中豪雨のときには、地震のときには、トルネード、つまり旋風のときには、天災にあつたときに、どうしたらいいかをこと細かに書いてあります。これを読んでいるだけで「日本沈没」以上の

小説が書けるのじやないかと思つたくらいでした。

ところで、日本に台風、地震、集中豪雨はないのだろうか。どころではない。ショッちゅうありますね。その時に、住民の一人として、家族の一人として、まずどうしたらいいか。それをパンフレットにして、あなたの住んでいる市や町から配つてくれたましたか。——ノウです。日本に対する「核攻撃」、いいえれば原子爆弾を落とされる可能性はどうでしようか。バカなことをおいいではない、とおっしゃるでしょう。だが、世界で核攻撃を実際に受けたただ一つの国は日本です。だから、一度あつたことは二度ある、というわけです。もし米国が核攻撃を受ければ、本当かどうか知らないけれど、カタキ打ちに核攻撃をする能力があるそうです。そこで、攻撃をする方も、ちょっと遠慮します。

だが日本はどうなのか。日本人や日本政府はどう思つてゐるか知らないが、日本の外では、こう考へています。

「日本は世界で初めて核攻撃を受けた国だ。従つて、今後の核攻撃の損害をできるだけ少なくするために、おもな産業の疎開や、核攻撃に耐える建築をつくつてはすだ。また、核攻撃の経験があるから、イザといえすれば核爆弾をつくつて、報復攻撃をやるシステムをつくつたはずだ」——これが世界の常識です。そして日本ではこんなことをいうのは「非常識」です。

さて、この核攻撃を「石油禁輸」に置きかえてみまし

よう。

米国はエネルギーの七五%が自給自足できる国です。日本はちょうどその反対で七三%を海外に頼っています。だから日本をいまさら核攻撃する必要は全くなく、石油を止めさえすればいいわけです。

たまたまアラブ諸国の石油禁輸で、エライことになりましたが、これは全く日本にとって予想外のことなのでしょうか。日本が核攻撃を受ける可能性はますないとしても、何パーセントはある。石油の供給ストップの可能性はそれどころか何十パーセントはあったわけです。その可能性のために日本はどれだけの準備をしていたのでしょうか。どうもゼロのようです。

それならなぜ日本の言論機関、というよりマスコミは政府にその準備をすることを要求しなかつたのでしょうか。それどころか、近ごろの日本の新聞をよむと、政府は国民に石油需給について正しい情報を与えず、今日の危機は政府の「無策」によるものだと、盛んに攻撃しています。これはマスコミのズルサである逃げ口上です。日本にとつて石油がどんな意味を持つか。そのための外交、経済をどうやつたらいいか。政治家が気づかない時に教えてあげるのが言論機関の第一の仕事です。「正しい情報」は政府が発表するものではなく、言論人が命をかけて得てくるものです。なぜそれを日本のマスコミは本気でしなかつたのか。

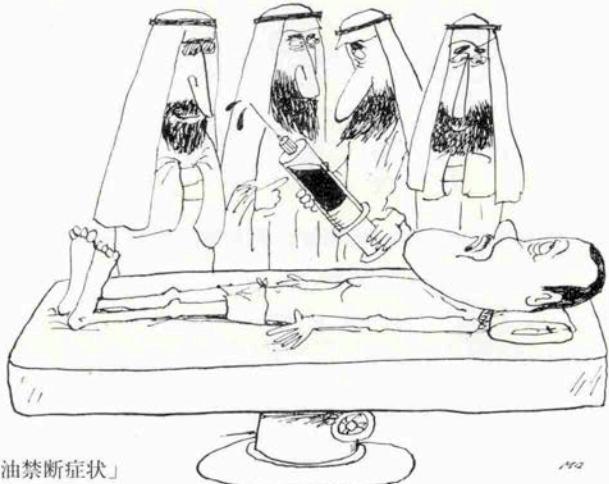
ここでマスコミをせめるのは、かわいそうです。かつて、マスコミの人間として、私が二年前に「日本はなんとしても『耐乏生活』にはいるべきだ」とか「マラッカ海峡で衝突事故があつたら、日本はお手上げだ」というと「意見としてはおもしろいが、オトギバナシだね」といわれました。そうです。私の言葉は「非常識」だったのです。

そのことをいま自慢したって無意味ですが、いまの日本の「世論」（だれがいつたかわからないが）を見ていると、ますます国際常識からはなれた「日本常識」いいかえれば国際的非常識の深みへはいっていきつつあるようです。

どうも議論ばかりでごめんなさい。

ところで、米国では七三年末現在、まだガソリンは配給制になつていて、ヘタなドライブをときどき私もやりますが、ガソリンの配給切符は七三年「四月」すでに印刷済みだそうです。日本も配給切符はガソリンだけでなく、洗剤、石けん、トイレットペーパーなどできているのでしょうか。

昨年おしつまつてからの禁輸解除で、ほつと一安心ですが、それこそ一度あつたことは二度ある。ソナエヨ・ツネニでです。



「石油禁断症状」